

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月26日

【評価実施概要】

事業所番号	0992700054		
法人名	医療法人弘真会		
事業所名	医療法人弘真会グループホーム尊徳		
所在地	栃木県芳賀郡二宮町久下田956-4 (電話) 0285-73-1550		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年2月26日	評価確定日	平成21年3月26日

【情報提供票より】(平成21年2月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤	7人(兼務1人), 常勤換算5.3人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	・理美容代—1,500円 ・おむつ代—100円/枚 ・持ち込み家電—50円/1点/1日	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500円	

(4) 利用者の概要(平成21年2月9日現在)

利用者人数	2名	男性	名	女性	2名	
要介護1		名	要介護2		2名	
要介護3		名	要介護4		名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	92.5歳	最低	91歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さくらクリニック, 二宮中央クリニック 訪問看護ステーションにのみや, 芳賀赤十字病院, 小倉歯科
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは町の中心部に位置し、近隣には同一法人のクリニック(2ヶ所)、訪問看護ステーションといった医療面で連携の取れた医療法人のグループホームである。また、同一母体の社会福祉法人の特別養護老人ホームが設置され交流が図られている。開設1年弱で入居者も現在2名であり、入居者に寄り添い、入居者の意向に沿ったケアを管理者及び職員が実践している。町が隣の市との合併が決まっており希望入居者も5名いる状況で、合併後入居者が増えても入居者一人ひとりの希望を大切に「その人らしさ」の実現を図るグループホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての自己評価、外部評価の実施である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は全職員に自己評価票を提示し、主に管理者、介護主任、介護支援専門員3名で話し合い、最終的に管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、民生委員、地域包括支援センター職員(町職員)、管理者等で構成され、2ヶ月に1回会議が開催されている。会議ではホームの活動状況を報告し、委員から意見や助言をもらって運営に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族は、月1回以上はホームを訪れており、その時に家族との話し合いをし、ホームへの意見、希望等について伺っている。苦情解決体制も整備され、意見箱も設置されているが、現在までに苦情等は寄せられていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩の際に近隣住民に積極的に挨拶をしたり、近隣の神社やお寺の行事に参加したりと交流が図られている。また、町の行事の夏祭りや秋祭りにも参加している。近所の小学生数名が定期的にホームに来て、入居者と折り紙やあやとりをして楽しんでいる。自治会には加入していない。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「お年寄りが安心して暮らせる家」「地域交流を密にし、地域と一体となった介護」を基本理念とし、また行動指針として「ゆったり・楽しく・安心して (緩・楽・安)」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念・行動指針は常に玄関に掲示されている。月1回のミーティング時や定期的なカンファレンスにおいて唱和をしながら職員間で理念を確認し、共有している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の際に近隣住民に積極的に挨拶をしたり、近隣の神社やお寺の行事に参加したりと交流が図られている。また、町の行事の夏祭りや秋祭りにも参加している。近所の小学生数名が定期的にホームに来て、入居者と折り紙やあやとりをして楽しんでいる。自治会には加入していない。	○	自治会加入の検討や、ホームの行事の際などに地域住民に呼びかけをして交流を図るなど、ホームを知ってもらい働きかけをしながら更に地域の方々との交流を充実させていくことにも期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての自己評価である。今回の自己評価は全職員に自己評価票を提示し、主に管理者、介護主任、介護支援専門員3名で話し合い、最終的に管理者がまとめた。今後更に自己評価及び外部評価の意義を職員全員で共有し、評価結果を活かして今後の改善に取り組んでいきたいと考えている。	○	自己評価・外部評価の機会をより活かしていくためにも、次回以降、自己評価を実施する際には全職員に評価票を配布し、職員一人ひとりが自己評価をし、意見交換をしながら集約するといった全職員での取り組みをしていくことに期待したい。

グループホーム尊徳

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、民生委員、地域包括支援センター職員（町職員）、管理者等で構成され、2ヶ月に1回会議が開催されている。会議ではホームの活動状況を報告し、委員から意見や助言をもらって運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは開設以来、情報交換をして連携を図っている。特に最近では町が隣市との合併を控えているため、より一層連絡を取り合っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「尊徳だより」を作成し、金銭管理簿と併せて家族等に送付している。健康状況については必要に応じてその都度、電話等にて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は近隣のため月1回は必ず面会に来ており、その時は家族と十分な時間をとり意見等を伺っている。ホーム内に苦情処理委員会を設置して苦情解決体制が整理されている。意見箱も設置されている。現在までに苦情は寄せられていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、異動はない。離職者1名はいたが、入居者に事前に説明し、入居者のダメージを最小限に抑える努力をしている。		

グループホーム 尊徳

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として月1回の職員会議時に勉強会を実施している。外部の研修には積極的な参加ができていない状況である。	○	今後、ホームでの実践を積み重ねていく中で、ホームの理念の実現に向けて、職員に必要な技術や知識を検討し、法人・ホーム内の勉強会、外部研修への各職員の参加を計画的・継続的に行っていくことに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設間もないため、県内の同業者の相互訪問等により交流を図り、サービスの質の向上に努めている。また、新設の同業者と連絡をとって、意見交換をして運営等に活かしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が自宅を訪問して本人及び家族と話をし、自宅での暮らしや生活暦を把握している。また、ホームを見学してもらい、わかりやすく説明し、本人が安心し、納得して入居できるよう本人の意思を尊重しながら対応している。特に入居間もない入居者には家族の訪問を多くしてもらうよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今までの入居者の経験を活かすことを心がけ、畑仕事、調理、裁縫等を入居者と職員とで一緒に取り組んでいる。食事づくりの場面では、入居者が味付けや食事の用意を手伝う姿が見られた。		

グループホーム 尊徳

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で話をしながら入居者一人ひとりの求めていることを把握している。現在、希望や意向の表出が困難な入居者はいないが、困難な場面が生じたときには、入居者に寄り添い、家族の協力を得て入居者の意向の把握に努めたいと考えている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室担当制を取り入れ、本人、家族を含めた担当委員会を実施し、その他の職員や週1回訪れる訪問看護師の意見も取り入れて介護計画を作成している。介護計画作成後には家族の同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、変化があればカンファレンスを実施し、検討し、適宜見直しを行い、家族に説明し同意を得ている。定期的な見直し期間は6ヶ月に1回を目安としている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けている。週1回、訪問看護師が訪問しており、母体が医療法人ということもあって医療面の連携が良く図られ、その都度柔軟な対応をして支援している。		

グループホーム 尊徳


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医での受診を支援している。現在の入居者は協力医療機関をかかりつけ医として受診しており、協力医療機関との連携のもと、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した際のホームの考え方について説明している。重度化した場合には本人、家族、主治医とで十分話し合い、方針を決めることとしている。	○	重度化した場合の対応や終末期のあり方について、管理者及び全職員で話し合いを行い、ホームとして最大の支援方法を踏まえて、方針・指針を作成し、本人、家族、関係者と繰り返し話し合っていくことに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシーを尊重して、日々の声かけや対応の仕方について職員間で共有を図り、支援している。個人記録等については個人情報規程に基づいて取り扱いをし、個人情報の利用範囲等については、家族に同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが日課は特に決めていない。入居者の希望により過せるよう配慮している。近所への散歩や買い物の同行、月1回の外食、ドライブ等、希望を聞きながら支援をしている。		

グループホーム 尊徳

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士の指導を受け、職員が入居者の好みに配慮しながら献立を作成している。訪問時には入居者が味付け等をして、一緒に調理をしていた。職員も入居者とテーブルを囲み、同じものを食していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制をとっており、入居者の好みに応じた時間帯に入浴できるよう対応している。また、季節ごとにゆず風呂やバラ風呂等を取り入れ、入浴を楽しめるように配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物、花の水やり、料理、掃除、テーブル拭き等、入居者一人ひとりのそれぞれの役割や楽しみごとを見出し、変化のある日常生活を営めるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に頻繁に散歩に出かけている。また、月1回以上は必ず買い物、外食、ドライブ等の外出の機会を設けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はせず、鍵をかけないケアを実践している。夕方には、玄関や窓の施錠を入居者が行い、職員が確認をしている。		

グループホーム 尊徳

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の自主的な避難訓練をしている。	○	消防署の指導を得たり、地元の消防団の協力を得ながら定期的な避難訓練を実施し、その際に地域の人々と一緒に訓練を行うなど、いざという時の協力が得られるような働きかけをしていくことに期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のアドバイスを受け、栄養バランスに注意しながら支援している。食事量や水分摂取は毎日記録し、健康状態の把握に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングとキッチンが対面になっており、キッチンにいるときでも入居者と職員がお互いを意識できるような造りになっている。茶の間には掘りごたつがあり、家庭的な雰囲気となっている。屋内はきれいに清掃され、入居者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自宅で慣れ親しんだ物を自由に持ち込んでもらい、ホームの居室が自宅の延長となることを目指し、職員と一緒に居心地よい居室づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。